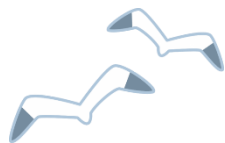




阪神カウンセリング・ラボ ニュースレター

2022 7月号



バウムテストの話 患者さんとのかわりから学ぶ

精神科の病院に勤務していた時、臨床心理学を教えてくださいました石橋教授（大阪国際女子大学心理学科教授（当時））は、「病院での仕事だけでなく、研究を忘れないように仕事をしましょう。」と指導してくださいました。私は、それまでの経歴から、絵画表現に関して何かしらの研究ができると考えました。小学生が描いた絵は、大人の鑑賞では計り知れない可能性がありました。そうした体験から、患者さんの表現活動から、精神世界の私の領域を広げていきたいと思いました。樹木画を描くという作業をしてもらうことが、患者さんを理解することにつながると思いました。そこで、心理テストの中にある BAUM テスト（樹木画テスト）を研究の一つにしたいと考えました。新規に入院した患者さんには必ず「BAUM テスト」を実施しました。当時参考にしていたカールコッホの「バウムテスト」の本は、性格診断する上でどう判断してよいかわからないことが多くありました。その記述がどちらなのか、正確にはどうなのかを知りたいと思ったことも、バウムテストを研究するきっかけになりました。

私は、精神科病院に勤務する前は、国立大学の付属小学校に勤務していました。そこでは、授業内容や授業方法についての論文を書いたり、美術教育関係の雑誌や、教科書会社の図画工作の指導書などに、教育活動の理論や方法を執筆したりもしました。

その中の一つに「せんせいあのね」という取り組みがあります。これは、私を指導してくださった、西光寺亨教授から教わったもので、小学校一年生が先生に向けて描く絵の手紙です。入学したばかりの一年生は、まだ文字を学んでいませんから、絵で先生にお話するというものです。文字でも伝えたいことがあったら、まだ学んでいない文字は書き順や文字自体が間違っているかまわないので書こうと伝えて実施していました。この「せんせいあのね」から教えてもらった子どもの絵のすばらしさは、精神科病院に勤務するようになってからも役立ちました。入院している患者さんの絵から教えてもらうことがたくさんあったのも、この教員のときの体験が生きていたからだと思います。BAUM テストは、私のその時代の研究の中心にありました。

阪神カウンセリング・ラボ

<https://www.hanshin-cl.com/>

*** 梅田相談室**

〒530-0014
大阪市北区鶴野町4-11 朝日プラザ梅田9階910
Tel/Fax **06 - 6147 - 2533**
E-mail hanshin-c.l@star.ocn.ne.jp

*** 明石相談室**

〒673-0891
明石市大明石町1-7-4 白菊グランドビル512
Tel **078 - 917 - 6880**

